

平成29年度第1回高知県総合教育会議

■ おち家の状況

人口5,847人

平成29年6月21日(水)

①越知幼稚園

- ・園児数 33人
- ・教員数 7人

②越知保育園

- ・園児数 105人
- ・職員数 30人

平成29.5.1現在

③越知小学校

- ・児童数 214人
- ・学級数 通10 特2
- ・教職員数 26人

④越知中学校

- ・生徒数 115人
- ・学級数 通4 特0
- ・教職員数 19人

越知町教育委員会

高知のなかにOCHIがある



越知中学校屋上から横倉山を展望

おち家の挑戦

学びの革命：**主体的・対話的で深い学びに挑戦**

◎変化が激しく予測が困難な時代にあって、自分の**人生を切り拓き**、よりよい**社会を創り出**していくことができる力が求められています。越知町は、**町の発展は、人づくりと捉え、21世紀に求められる人材を育成**するため、

越知町教育大綱、越知町教育振興基本計画 に基づき、**おち家**(行政・学校・家庭・地域)が **協働**して、教育の振興を図ります。

「**チームおち家**」



☆おち家の学力向上の理念

◎確かな学力と教育の質の保障
～越知スタイル～

- 個人の能力によって、**学力差**を生まない。
- 学年集団の特性によって、**学力差**を生まない。
- 家庭・地域の教育力の差で、**学力差**を生まない。
- 教員の経験や力量の差で、**学力差**を生まない。
- **小中が連携**して、取組みます。

越知町教育委員会の学力向上施策

1 越知町学力向上対策

- ①越知町学力向上スーパーバイザー
西留安雄先生による教職員研修
校務改革 子どもと向き合う時間の確保
授業改革 探究的な授業づくり
人材育成 研究会後の若年教員の指導
OJT 常識手帳
言語活動 まなブック 教材備品
- ②探究的な**授業実践**
- ③基礎基本の定着 宿題と徹底指導
- ④加力、補習学習

2 放課後学習等学習支援事業費 (県補助金)

- 授業補習 2人
- 放課後補習 3人

3 高知県教育版アクションプラン (県補助金)

- ・子どもの未来を拓く教育研究事業 28年度
- ・目指す目標 : 確かな学力と豊かな人間性を育てる。

具体的取組

- ①校務改革、授業改革・探究的な授業づくり
西留先生 6回
- ②学校生活サポーターの配置 小4人、中2人
- ③教職員研修 多様な講師
赤木かん子先生 菊池省三先生
久我直人先生 清國祐二先生
- ④英語検定費補助 全員受験
- ⑤先進地視察研修

福井県 鳥取県 京都 東京 埼玉



越知中学校の学力向上対策



教科の枠を超えて 教員の授業力を磨き合う取り組み

越知町教育委員会

平成24年度からの **3つの取り組み + 1**

基本方向1

高知県の教育大綱

基本方向2

成果を生む組織になるための
組織・人材育成
チーム学校

効果的な方法を創り行うための
分析
評価力

多様な生徒を育てる
実践
必要な教育を生徒へ

+1 **生徒が主体的に活動し、達成感を持つ行事・部活動を豊富に行う学校づくり**
学ぶ集団づくり

平成24年度からの **3つの取り組み** ①

成果を生む組織になるための
組織・人材育成
チーム学校

**P：学校や教職員の
あるべき姿、計画と
方法の方向性**

- ・**教育理念 越知中の教育と求められる校務姿勢**
- ・**全員で成果をつくる(チーム学校へ)**
教科授業の縦持ち
学年団組織の廃止(全員対応へ)
評価活動の協働
若年教員の育成
- ・**組織や同僚への貢献に価値を置く学校**

教育理念

「今、日本の教育シーンが面白い」と感じ、
夢を持って校務する教職員になって欲しい。

20世紀の価値観を持つ大人では、正解がわからない時代
未来を開くのは、異能の子供たちの可能性が高い
未来を担うのは、多くの普通の子供たち。

**教職員が教育の状況や、生徒に託す夢を共有すれば、
互いに磨き合い教育効果の高い学校ができる！**

人材育成

**公教育の現場が夢を持ち、新しい取り組みを始め
生涯にわたって役に立つ本物の素養を育てる。**

- ・自己の指導で、**生徒の学力がどのように変わったのか**を見とる**分析力**を持った**教員**に育てる。
- ・同僚や管理職は、**演示し成長を見守る。成長や育成を評価する。**

平成24年度からの **3つの取り組み** ②

効果的な方法を創り出すための

分析

評価力

P：実施内容・方法の作成

C：改善に生かす評価

A：効果的に改善

- ・分析は、全体で課題や成果が明確に共有できる資料としてまとめる。
- ・分析は、指導に活かせる数値の傾向や原因を見とるために行う。
- ・分析は、目標達成の程度を定期的に測ることである。

◎分析することで、

- ・学級全体や生徒個人の学力の把握ができる。
- ・教科指導の実態や改善・支援の方法を理解できる。
- ・目標や改善の方法を共有できる。

◎年度末までに目標を達成する覚悟で、
分析し、修正し、実践し、目標に近づける。

改善のポイントは



◎平成24年度は、

全体の**3分の1**の生徒しか**全国平均を超えて**いない。

1 **注目**するのは、もう少しで全国を超える生徒が多いこと。

この層の生徒が → 実際より**4問多く正解**すれば
全体の平均が**全国平均を超える**。

①**全国正答率が70%を超える問題の誤答が多い**。←これを改善する

2 **ほとんど問題を解けない生徒に、基礎学力を育てることは学校の使命**。

この層の生徒を → **全国平均正答率の50%以上まで学力を育成する**。

②**全国正答率が70%以上の問題は、確実に解けるまで指導する**。

どうやら、**全国正答率70%以上の問題への取り組みが鍵**のようだ！

効果的な方法を
創り出すための

分析

分析力は、
教職員に必須の能力

平成24年度からの

3つの取り組み ③

多様な生徒を育てる
実践
必要な教育を生徒へ

学校（教職員）と地域・外部人材がコラボし教育力を高める
「越知チームシステム」

D：個人と組織機能を
マッチングした活動

概念と資質・能力が育つ

「授業システム」

家庭学習で学力が育つ

「宿題システム」

社会性や人間力が育つ

「体験・部活動システム」

教科授業であっても他と協働
するのが越知方式。

各担当は、協働的に校務を
計画する。協働する教職員の
姿勢を評価する。

多様な生徒を育てる
実践
必要な教育を生徒へ

学校（教職員）と地域・外部人材がコラボし教育力を高める
「越知チームシステム」

◎授業システム ←支援 他教科教員 + 学習支援員 + 学力サポーター + 地域人材 + 教育委員会

- ・他教科教員 ①協働授業システム（関連内容で参加・英語を利用した教科授業） ②授業研究で協働研究 ③補習システム ④校内漢字・英語テストの実施システム（採点） ⑤学力状況・成績評価で協働
- ・学習支援員 ①常時授業支援 ②宿題システム（採点・直し指導） ③補習・個別支援システム ④越知塾運営
- ・地域人材 ①総合的な学習の時間講師 ②体験活動指導支援
- ・教育委員会 ①総合的な学習の時間支援
*養護教諭・事務職も教諭と区別なく生徒に関わり、評価分析にも参加。

◎宿題システム ←支援 他教科教諭 + 学力サポーター

- ・他教科教諭 ①宿題システム（未提出者指導・間違い直し指導）
- ・学力サポーター ①宿題システム（採点・状況記録・状況報告・宿題の形式や内容改善の助言）

◎体験・部活動システム ←支援 教育委員会 + 地域支援コーディネーター + 外部コーチ + 地域人材

生徒会・委員会による
体験的活動
システム

- ・教育委員会 ①総合の時間の企業連携・体験活動等 ②地域行事連携
- ・地域支援コーディネーター ①総合的な学習の時間外部人材調整
- ・外部コーチ ①部活動運営の補助（5つの部活動が利用）

多様な生徒を育てる
実践
必要な教育を生徒へ

(平成24年度から) 基礎学力向上の取り組み



- ◎授業 → 基礎的内容の理解や演習に今までより時間をつかう。
 - ・単元計画の作成・修正(教科担任が協力し合う)
- ◎宿題 → 基礎的問題を定期的に年間を通じて出題し、やり直し指導をする。
 - ・採点の分担・全員で補習・定期的に宿題の状況进行分析
- ◎定期考査 → 定期考査を単なる評価テスト(成績表作成テスト)から、学力定着のためのテストに変える。
 - ・考査前指導と各教科共通の問題構成で他教科と比較可能にする。
- ◎評価・修正 → 定期考査の結果分析を丁寧に行い、改善と指導を確実に行う。
 - ・成績会議を実施(全員で学力を評価する)
 - ・未到達内容の再指導や補習の計画を共有する。指導改善。
- ◎個別指導 → 宿題の内容の改善や、まちがい指導を充実する。
 - ・できるまで指導する。時間を空けて再指導する。
 - ・放課後や長期休業の個別支援(全教職員で)

☆ これ以後は、

具体の**目標設定**の状況、**探究的な授業づくり**への**体制、組織をつくる**管理職としての姿勢などの**越知中**で教職員に、**理解**してもらっている資料です。

◎学力育成

越知中学校は、これを徹底して行なっています。

1 **学力目標を機能させる** ⇒ 学力目標の**下位目標**を設定し、目標を**段階的に達成**する。

2 教職員の姿勢

○ **全教職員**がすべての**教科に関わり**をもち、学校として**学力を育成**する。

指導(授業も)・援助・補完・評価などを協働的に行う。

○ **実践の修正や改善**に**確実に取り組む**。

下位目標の達成を重ねて、**学力目標を達成**する。

学期の取り組み・・・**実践→中間評価→修正→実践→期末評価→修正**

D→C→S→D→D→C→S→D 繰返し。

年間の取り組み・・・**2学期末で到達度を評価→3学期の実践を修正→目標達成**



3 **校長は、教職員の下記の校務姿勢**を評価する。

○ **実践を評価**するのではなく、**成果を生み出すための取り組み**を評価する。

○ **協働的な校務**を**高く評価**する。

☆学力 数値目標

- ◎全体目標
- ・定期考査の学年平均正答率の基準
各学年の正答率目標 1年 70%
2年 80%
3年 85%
 - ・全国学テ A問題正答率 80%
 - ・全国学テ B問題正答率 70%

- ◎個別目標 学力検査・定期考査で、正答率50%以下の生徒0人



☆効果のある実践をチームで



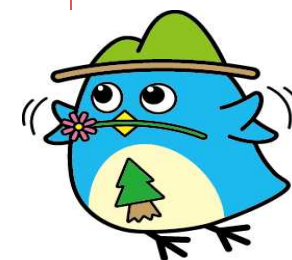
◎目標 ⇒ 定期考査で、学級平均正答率を85%以上にする。

「基礎学力をすべての生徒に育成する」どの学校でもこのように思い
教職員は校務しているが、達成できない学校がほとんど！
従来の方法論では、成果は期待できない。



- 授業はどうする。
- 定着させる方法は。
- 評価は。
- どのように関わればいいのか。

☆資質・能力を育成する教科指導へ



理念的な目標で意識を共有化

←理念を共有しないと、教職員の個性や良さが生かせず、豊かな教育にならない。

□21世紀型学力として育成すべきは、実践的な思考力・姿勢である。

それらを構成するものは、

○思考力の源である言語能力

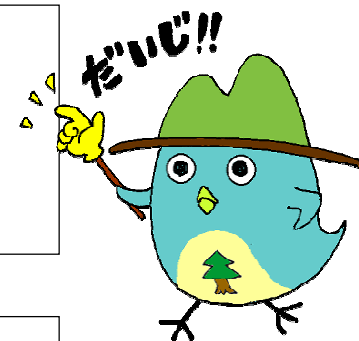
○人格を構成する個人の感性と、規範姿勢および人間関係力

□教科等で目標と方法を共通設定

目標 ・基礎的概念の育成と、それをもとにした思考力

方法 ・意図的な言語活動のある個人探究と集団探究を設定

☆資質・能力の育成を評価する



- ①高知県授業スタンダード ⇒ 主体的・対話的で深い学びの授業
- ②言語能力の育成 ⇒ パフォーマンスによる評価の質的転換
資質・能力(教科力・思考力・人間関係力)の育成を意識する。

意識

- ①研究授業 ⇒ 事前に模擬授業を実施(他の教諭等の知恵を借りる)
- ②単元目標 ⇒ パフォーマンステストによる資質・能力の評価
他教諭と授業を創り評価するなどの厳しさのある支え合い。

行動

- ①校長は、教職員の意識と行動を評価し、人事評価に反映する。
- ②適切な評価による成果管理(成果がでるまで一緒に努力する=成果管理)によりチームに成長する。

評価

○教育力を高めるために、実践しなければならないこと。

☆管理職が、意識や実践を先導する。

・知識と実践について教職員が認める校長になるように努めること。

- ①個々の生徒の良さや学級の状態を正確に把握し、指示ができる。
- ②教職員の校務努力の内容を理解している。
- ③学習指導要領や新学力観の解釈が実効性があり深い。
- ④授業を率先し模範的に行える。指導の評価やアドバイスが緻密。
- ⑤改善する意欲を高める責任ある評価ができる。
- ⑥補習や個別指導を一緒に行い、学力や心情育成の模範となれる。
- ⑦困難や危機的状況でも的確な指示や率先した取り組みで信頼される。



◎学力(概念 = 基礎知識・考える力・人間関係力)を育てる構造

構造図にできなかったが、すべてに複数の支援や評価がある組織を目指している。学級づくりは基盤。地域と一緒に生徒育成は基本姿勢。

学力育成

教科担任

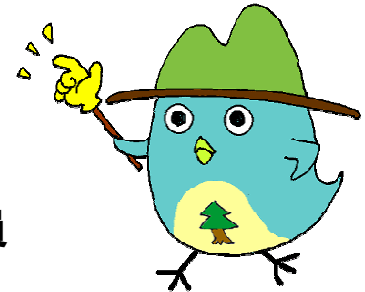
教科担任以外:副教科担任として支援、授業を相互に乗り入れる。

学習支援員: 授業支援・放課後指導

学力サポーター: 宿題採点・応答分析・課題報告

養護教諭: 授業参観・支援 県内外からの視察

管理職: 授業や補習支援・随時評価・指導 事務職員



教育研究

県教育委員会・中部教育事務所の指導、助言

教育長・教育委員会による学校内外での支援や協働

西留先生の指導 県外視察 CS PTA OB会 企業:ツムラ・ヒューマンライフ

学級育成

学級担任

学級担任以外は副担任 県内外からの視察

生徒会・委員会活動・地域支援ボランティア

養護教諭:相談的支援 管理職:支援・評価

SC・SSW:不適応生徒支援 事務職員

豊富で多彩な行事・クラスマッチ 部活動顧問・外部コーチ